

< 運営推進会議における評価 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	医療法人 オホーツク勤労者医療協会	事業所名	看護小規模多機能たんぽぽ
所在地	(〒 090- 0817) 北見市常盤町 5 丁目 4 番 7		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

医療ニーズがある利用者等の療養生活を看護と介護が一体となり、自宅で安心して過ごすことができるように、365日24時間支援いたします。また、ご家族にとっても仕事と介護が両立できる環境を支援いたします。介護が必要になっても慣れ親しんだ地域でその人らしい生活をして、楽しくて、利用して良かったと思っていただける取り組みをめざします。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2021 年 3 月 18 日	従業者等自己評価 実施人数	(10) 人 ※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	------------------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 _____ 年 _____ 月 _____ 日	出席人数 (合計)	(_____) 人 ※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	☐ 自事業所職員 (_____ 人) ☐ 市町村職員 (_____ 人) ☐ 地域包括支援センター職員 (_____ 人) ☐ 地域住民の代表者 (_____ 人) ☐ 利用者 (_____ 人) ☐ 利用者の家族 (_____ 人) ☐ 知見を有する者 (_____ 人) ☐ その他 (_____ 人)		

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目		前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
Ⅰ．事業運営の評価 (評価項目 1～10)		事業所理念に基づき、様々な状況に対応できる能力を身に着ける。個々の職員目標を設定し、定期的に振り返りや助言を行い次の課題を明確にすることで、事業所内外の研修に参加し学習意欲へと繋げる。7・8月に緊急時対応、9月に火災・自然災害の避難訓練を実施し対応を学ぶ。	個々の職員目標を設定することができなかった。コロナ禍の影響で外部の研修参加ができなかったが、事業所内で学習計画を持ち、実践してきた。不十分ではあったが自然災害についても訓練を行った。 9月にリモートで芦別平和診療所所長をお招きしオホーツク勤医協の歴史、職員倫理を学ぶ機会があった。 就業環境の整備も、退勤システムの導入等により前進している。	オホーツク勤医協の設立に至るまでの様々な経過や地域の中で困難な方に寄り添う法人の理念を学んだ。法人の中での事業所の役割を再認識する機会となった。また、外部研修に参加できない状態であったが、内部研修を意識して行ったことや避難訓練を実施したことは良かった。 職員の面談を行う予定であったが、管理体制が安定しない中で実践することができなかった。個々の職員の目標設定ができなかったことにより、達成度や改善状況がわからなくなってしまった。
Ⅱ．サービスの提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	医療介護連携会議等を通し状況に応じて本人、家族の意向確認、関係各所との連携を図り全職員が情報共有し迅速な対応が出来るように取り組む。	協力医療機関である北見病院との医療介護連携会議において看多機の特徴や基準等を紹介した。退院患者の特性に応じたサービスを提供できることで利用につながるケースもあった。	事業所内の介護職と看護職の役割分担や情報共有、協力医療機関との連携は前進している。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	利用者・家族の状態・状況把握・情報共有し関わる多職種との連携を続けていく。	入院に至った場合でも、医療機関への情報提供、家族からの情報収集や退院前のカンファレンス等へ参加する等、入院しても関わりを継続し支援している。	退院しても安心して在宅生活が過ごせるよう、また自立支援につなげるためにも多職種との関わりを強めたい。法人内に、リハビリ技士や管理栄養士もおり、連携する環境が整っているが、まだ十分に活かしきれていない。

	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	認知症になっても医療的ケアが必要な状態でも少しでも長く住み慣れた地域で生活できるサービスがある事を知ってもらえるよう地域で横のつながりを深めていく。	毎年参加していた町内会の新年会や花見行事も今年度はコロナ禍で中止となった。 また、運営推進会議も開催することができなかった。 地域の中では訪問看護が医療的ケアを含む療養生活を支えている。看多機は看取り支援は受け入れられるが、喀痰吸引や人工呼吸器の受入れは夜間体制が困難な為受入れはできていない。	地域も高齢になっており、感染拡大には大きな不安を抱えている。そのなかでも地域とどのような接し方があるのか模索する必要がある。 医療的ケアには十分に応えきれていない。しかし看取り支援や緊急時の柔軟な対応、訪問看護との一体運営等、看多機の特徴を十分伝えきれていない。実績や事例等を通して地域やケアマネジャー等に知ってもらい取り組みを行いたい。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)		療養生活を安心・安定して生活が送れるように柔軟なサービスを提供する。看取り時には主治医、看護師、関係各所と密に連携を図り利用者・家族を支えていく。	前年度と比較して満足度は若干上がった。看取りの方はいなかった。	地域で安心して住み続けられるよう、主治医、看護師、関係各所と密に連携を図り利用者・家族を支えていきたい。

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画
Ⅰ. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	個々の面談を行いながら、専門的技術の質の向上の研修会、事例検討会等でスキルアップにつながる研修を継続したい。 安全管理のなかでは、自然災害とあわせて新型コロナウイルス感染が発生した場合の事業継続計画の実践が求められている。 対応ができるよう訓練を行いたい。また、コロナ禍ですが、地域の方と一緒に訓練ができるよう働きかけを行いたい。	個々の職員目標を設定し、定期的に振り返りや助言を行い次の課題を明確にすることでスキルアップや質の向上へつなげる。 安全管理、感染対策とともに、自然災害、新型コロナウイルス感染症の発生時の対応について学習を行う。コロナ禍だが、地域と連携するための情報発信を行う。

Ⅱ. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	引き続き介護職と看護職の役割分担や情報共有、協力医療機関との連携を図りたい。また、「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」等の内容に沿った取組を行うことが求められており、学習をしながら実践したい。	協力医療機関やその他関係各所と連携を図り、全職員が情報共有し迅速な対応ができるようにする。「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」の学習を行う。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	在宅生活を継続できるよう、他機関・多職種との連携を強めたい。法人内にはリハビリ技士や管理栄養士もおり、サービスやケアプランの質の向上の観点からも連携できる体制を構築したい。	専門職には必要時、事業所のカンファレンス等に参加を要請し助言をもらう。入退院時に情報共有するなど連携できる体制を構築する。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	コロナ禍でも地域とどのような接し方があるのか、対面をしなくても情報発信ができるよう模索したい。 誰でも安心して暮していけるよう、訪問看護と一体となってサービスが提供されること、緊急時に柔軟に対応できる等の特徴を地域に知ってもらう取り組みを行いたい。	利用者やご家族には通信などを通して、事業所の状況や介護の情報を、地域の方には法人が発行するニュースや町内会の回覧板等を通して、介護や看多機に関わる情報を発信する。 運営推進会議は当面開催が難しそうなので、構成員には書面等で定期的に現況を報告する。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)		地域で安心して住み続けられるよう、主治医、看護師、関係各所と密に連携を図り利用者・家族を支えていきたい。	療養生活を安心・安定して生活が送れるように柔軟なサービスを提供する。看取り時には主治医、看護師、関係各所と密に連携を図り利用者・家族を支えていく。

※「進捗評価（運営推進会議における意見等）」には、運営推進会議の場で得られた主なご意見等をメモします。その他の欄は、事業所が記載します

■ 「今回の改善計画（案）」および「運営推進会議における評価」

項目		改善計画（案）	運営推進会議における意見等
Ⅰ．事業運営の評価 （評価項目 1～10）		個々の面談を行いながら、職員の育成につながるような研修を継続したい。 安全管理のなかでは、自然災害とあわせて新型コロナウイルス感染が発生した場合の事業継続計画の実践が求められている。 対応ができるよう訓練を行いたい。また、コロナ禍ですが、地域の方と一緒に訓練ができるよう働きかけを行いたい。	個々の専門的技術の質の向上の研修会、事例検討会等でスキルアップにつながる研修の継続をお願いしたい。
Ⅱ．サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 （評価項目 11～27）	引き続き介護職と看護職の役割分担や情報共有、協力医療機関との連携を図りたい。また、「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」等の内容に沿った取組を行うことが求められており、学習をしながら実践したい。	
	2. 多機関・多職種との連携 （評価項目 28～31）	在宅生活を継続できるよう、他機関・多職種との連携を強めたい。法人内にはリハビリ技士や管理栄養士もおり、質の向上の観点からも連携できる体制を構築したい。	多職種連携による利用者への視点を検討し、ケアプランの質の向上に努めて頂きたい。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画（評価項目 32～41）	コロナ禍でも地域とどのような接し方があるのか、対面をしなくても情報発信ができるよう模索したい。 誰でも安心して暮していけるよう、訪問看護と一体となってサービスが提供されること、緊急時に柔軟に対応できる等の特徴を地域に知ってもらい取り組みを行いたい。	
Ⅲ．結果評価 （評価項目 42～44）		地域で安心して住み続けられるよう、主治医、看護師、関係各所と密に連携を図り利用者・家族を支えていきたい。	

※「改善計画（案）」には、事業所としての案を記載します。「運営推進会議における意見等」は、運営推進会議の場で得られた主なご意見等をメモします

■ 評価表 [事業所自己評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよ そ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
Ⅰ 事業運営の評価【適切な事業運営】							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている		○			理念が明確で、自己評価もできている。コロナ禍においても事業所内研修を行い、モチベーションを継続している。	✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		○				✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
(2) 人材の育成							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	およそ できている	あまりで きていない	全く できていない		
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している			○		今後は人材育成の観点から、個々の目標設定、達成度などを話し合う場の設定をお願いします。	✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
		[具体的な状況・取組内容] 職員の中長期的な育成計画は作成できなかった。個別面談も行えなかった。入職3年目までの職員は、法人の育成制度により、事例をまとめ報告する取り組みをしており今年度は2名が報告をした。					
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している		○			できている	✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 事業所内での研修計画により毎月学習会を行っている。今年度は各職員が講師を務めターミナルケア、ボディメカニクス、認知症等について学んだ。					
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている		○			できている	✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
		[具体的な状況・取組内容] 毎朝、介護職員・看護師・ケアマネジャー参加で情報共有している。週2回のカンファレンスを開催、月1回部会で情報共有している。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている				○ <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 今年度はコロナ禍により運営推進会議を開催できなかった。	コロナ禍であり集まっ ての運営推進会議の開催は困難 と思われます。中止や延期を しても構わないと国からも 示されていますが、運営推進 会議に各構成員に対し文書 による情報提供・報告を行う などの代替策で開催として は如何か。	✓ 「得られた要望・助言等のサー ビスへの反映」の視点から、充足度 を評価します
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くこと ができる就業環境の整備に 努めている		○			できている。	✓ 「職員が、安心して働くことので きる就業環境」の充足度を評価し ます ✓ 例えば、「職員の能力向上の支 援」、「精神的な負担の軽減のため の支援」、「労働時間への配慮」な どが考えられます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている		○			できている。	✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 毎日、朝会やカンファレンス、業務日誌等で情報共有している。参加できない人は記録を読んで確認している。申し送り用紙を更新する等創意工夫を行っている。					
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている		○			できている。	✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
		[具体的な状況・取組内容] 事故防止対策や個人情報保護の学習を実施している。アクシデント・インシデントは口頭と書面で報告し、内容は朝会・カンファレンスで報告、対応を検討し月1回の部会で評価している。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている			○		今後も更に取り組みをお願いします。	✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
Ⅱ サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		○			できている。	✓ 「家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およ そ でき てい る	あ ま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		○			できている。	✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		○			できている。	✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている			○		利用者の自立支援の視点から、 できること、できそうなことへの支援、リハビリの実践等を行い、より一層取り組みをお願いする。	✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている		○			できている。	✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
[具体的な状況・取組内容] 状況変化の予測や緊急時の対応は看護師に助言をもらいながら、カンファレンス等により把握を行っている。誤飲や転倒などのリスクを踏まえ看護職と協力し計画を作成している。							
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている		○			できている。	✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
[具体的な状況・取組内容] 利用者の状況変化時はカンファレンスを行い、必要な計画の変更などを行っている。							
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している		○			できている。	✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
[具体的な状況・取組内容] ケアマネジャーが毎月利用者宅を訪問しモニタリングを行い、必要な支援について検討している。							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	およそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている		○			できている。	✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 医療機関や福祉用具事業所、訪問看護、リハビリ担当者と、目標達成状況について意見交換をしている。状況の変化があればカンファレンスを行い、入退院時には情報提供し、必要時医師からの病状説明への同席、退院時カンファレンス等にも参加している。					
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている		○			できている。	✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です ✓
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 介護職は通所や訪問を通し、日常生活を観察し、状況の変化等があれば看護師に報告し情報共有している。看護師は適切に対応し必要時には主治医に報告するなど専門性を活かした役割分担を行っている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
20	○ 利用者等の状況について、 介護職と看護職が互いに情 報を共有し対応策を検討す るなど、両職種間の連携が 行われている		○			できている。	✓ 「介護職と看護職の情報共有お よび対応策の検討」について、充 足度を評価します
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対し て、疾病予防・病状の予後予 測・心身の機能の維持回復 などの観点から、情報提供 や提案等を行っている		○			できている。	✓ 「看護職の専門性を活かした、介 護職への情報提供や提案等」につ いて、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、 看護職の専門性を活かした役割 の1つとして期待されます
〔具体的な状況・取組内容〕 週 1～2 回のカンファレンスや毎朝の打ち 合わせで情報を共有している。							
〔具体的な状況・取組内容〕 看護師からの病状の予後予測、床ずれや転 倒予防、体調管理、服薬など状況に合わせて 情報提供及び提案は支援記録、朝のミー ティングにより行っている。							
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴 等について、分かりやすく 説明し、利用者等の理解を 得ている		○			できている。	✓ 「利用者等の理解」について、充 足度を評価します
〔具体的な状況・取組内容〕 重要事項説明書やパンフレットを用いて説 明している。サービス内容はその都度説明 し了解を得ながら行っている。							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○			できている。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 医療機関から受けた療養上の留意点については担当者会議などで説明しプランに盛り込んでいる。					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○			できている。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 医療処置はバルンカテーテル留置とインシュリン注射が必要な利用者の対応を行っている。利用者等の医療処置や機器の取り扱い等のかかりつけ医が行っており、インスリンの単位数の変化等においても情報が共有できている。					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している		○			今後も確認をお願いしたい。	✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 重度化に至る事例はなかった。意思決定が必要なケースがあればカンファレンス等で希望や意向を確認している。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている		○			できている。	✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 自宅で転倒を繰り返すなど、危険を察知した際には臨時で宿泊するなどの対応を行っている。在宅生活の継続の選択についてはリスク等も想定し、都度家族と相談をしている。					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している		○			できている。	✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
		[具体的な状況・取組内容] 対応が必要な利用者はいなかった。					
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	○				できている。	✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
		[具体的な状況・取組内容] 入院時には事業所から情報提供し、入院中は医療機関や家族と連絡を取るなど適宜情報を収集している。退院前カンファレンスや書面で情報を共有しケアの継続で在					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	およそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		宅生活がスムーズに行えるように支援している。 利用には至らなかったが、ケアマネより医療機関から急に退院を余儀なくされた新規利用者を緊急ショートで受けてほしいと相談があり、受け入れ準備をすすめた事例があった。					
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている		○			できている。	✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	○				できている。	✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 急変が予測される利用者については看護師やケアマネジャーが主治医と連携し対応方針等が共有されている。					
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 勤医協北見病院と医療連携している。緊急時は 365 日 24 時間訪問看護が対応し、かかりつけ医に連絡する等の連携体制が構築されている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	およそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている			○		運営推進会議が開催できない場合、できる範囲で書面会議などを工夫できれば良い。	✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている			○		開催した場合においては、誰でも見られるような対応をお願いします。	✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およ そで きて い る	あま りで きて いな い	全 く で きて いな い		
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている			○		事業所の役割、実績、事例、看取り等、ケアマネが集まる組織団体にて啓発活動を行うと理解が深まっていくのでは。	✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している	○				できている。	✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の観点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	およそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする 要介護者を受け入れること ができる体制が整っており、積極的に受け入れている				○ <u>【具体的な状況・取組内容】</u> 介護職がたん吸引できる体制にない、看護職が対応できる範囲のみ受け入れている。3 号の登録研修機関として登録があり、対象者がいた場合には受け入れを検討できる体制にある。	✓ 「積極的な受け入れ」について、 充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」 が整っていない場合は、「全くで きていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よく できている」は、その「積極性」 の視点から、充足度を評価します	
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする 要介護者を受け入れること ができる体制が整っており、積極的に受け入れている				○ <u>【具体的な状況・取組内容】</u> 人工呼吸器を必要とする要介護者を受け 入れる体制は整っていない。	✓ 「積極的な受け入れ」について、 充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」 が整っていない場合は、「全くで きていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よく できている」は、その「積極性」 の視点から、充足度を評価します	
37	○ 「看取り支援」を必要とする 要介護者を受け入れること ができる体制が整っており、積極的に受け入れている		○		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 看護師と 24 時間連携し受け入れは可能で あり、要望にも応えている。	✓ 「積極的な受け入れ」について、 充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」 が整っていない場合は、「全くで きていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よく	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
							できている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している			○		第8期介護保険事業計画（R3～R5）を作成したので利用して頂きたい。	✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」
② サービス提供における、（特定の建物等に限定しない）地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	○				できている。	✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている			○			✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている		○			できている。	✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整え

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき て い る	およそ でき て い る	あまり でき て い な い	全 く でき て い な い		
							ていくなどの役割も期待されま す ✓ そのような取組をしたことがな い場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	①. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の 2/3 くらいについて、達成されている 3. 利用者の 1/3 くらいについて、達成されている 4. 利用者の 1/3 には満たない [具体的な状況・取組内容] 居宅介護計画は月 1 回、看護小規模多機能型居宅介護計画は 3～6 ヶ月毎にモニタリングを行い評価している。ほぼ達成されています	できている。	✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ②. 利用者の 2/3 くらいについて、達成されている 3. 利用者の 1/3 くらいについて、達成されている 4. 利用者の 1/3 には満たない [具体的な状況・取組内容] 11 月にアンケートを行っており、満足と回答した方は 79%だった。		✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない ⑤. 看取りの希望者はいない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 在宅での看取りの希望者はいなかった。		✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します ✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます ✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」